

(様式3)

会議の開催結果について

1 会議名	平成27年度 第2回 文化財保護審議会
2 開催日時	平成27年11月27日(金) 14時から
3 開催場所	市役所7階 行政委員会室
4 会議の概要	◎答申 「河内長野市指定文化財候補(東洋図・世界図屏風)」について ◎報告「河内長野市歴史文化基本構想の策定」について ◎報告「史跡 烏帽子形城跡整備事業の進捗」について ◎報告「平成28年度 河内長野市文化財事業計画(案)」について ◎その他 上記の1件の答申、3件の報告が行われた。
5 公開・非公開の別 (理由)	公開
6 傍聴人数	1人
7 問い合わせ先	(担当課名) 生涯学習部 ふるさと交流課 (内線749)
8 その他	特になし

*同一の会議が1週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

平成27年度 第2回 文化財保護審議会議事録

日 時：平成27年11月27日（金）午後2時から午後4時

場 所：河内長野市役所 7階 行政委員会室

出席委員：櫻井 敏雄 会長

中村 浩 副会長

樽野 博幸 委員

長田 寛康 委員

小栗栖 健治 委員

北川 央 委員

山田 智子 委員

小谷 利明 委員

事務局側出席者：和田 栄 教育長

橋本 亨 生涯学習部長

井上 剛一 ふるさと交流課長

太田 宏明 ふるさと交流課文化財保護係長

島津 知子 ふるさと交流課文化財保護係副主査

八木沼 彩 ふるさと交流課文化財保護係副主査

案 件： ・議事第2号

答申「河内長野市指定文化財候補」について

（東洋図・世界図屏風）

・報告第2号

報告「河内長野市歴史文化基本構想の策定」について

・報告第3号

報告「史跡 烏帽子形城跡整備事業の進捗」について

・報告第4号

報告「平成28年度 河内長野市文化財事業計画（案）」について

【開会】

〈教育長挨拶〉

〈会長挨拶〉

【議事第2号】答申「河内長野市指定文化財候補」について（東洋図・世界図屏風）

北川委員：TYPVS ORBIS TERRARVMについても、アジアを描いている。元々世界図と

いう表現をしていたが、世界＝西洋を意味しているのので、東洋図を付け加えたと説明されているが、世界図屏風は東洋を含む世界全体を表現したものである。一方で、本城の方は東洋のみを描いたものであり、東洋図と世界図のセットとなっているためこの名称となったという説明が正しい。しかし、これについても現在の知識からすると東洋図だが、当時においては世界図として描かれている。両方とも当時の世界観を現したものであり、東洋における世界観と西洋における世界観が共存した2つの世界図屏風といえる。

長田委員：P5 世界（西洋）の括弧書きを記載から外してはどうか。

島津副主査：当時の2つの世界観が描かれているという解釈で、不十分な部分を補う。ご指摘の（西洋）については、記載から外し、説明を修正する。

北川委員：欠落部分が残っておれば、日本のどこにも類例のない物凄く貴重なものである。

長田委員：プランキウスの絵をみると、左右に天球図があるが、資料の復元図では、天球図が右に、世界図が左にある。左右に入船・出船があつて、真中に世界図が正しい位置ではないか？つまり、DとEが入れ替わっている。

北川委員：アメリカがDの位置にこないとおかしい。

太田係長：京都大学からの報告書を再確認し、修正する。

長田委員：東アジアの方も本来のサンプルがあるので、それと照らし合わせ、欠落部分と現存部分が明確にわかるようにしてほしい。名称を世界図屏風のところまでとし、員数を二曲三隻（一件）としてはどうか。

島津副主査：絵図の位置について、京都大学の報告書と照らし合わせ確認する。

櫻井会長：委員の先生の意見を反映した上で、指定文化財候補が教育委員会の指定文化財候補に値するものとして答申案のとおり答申します。

【報告第2号】 報告「河内長野市歴史文化基本構想の策定」について

山田委員：基本構想の具体的な目標や何カ年計画といった目測はあるのか？

太田係長：今後策定していく文化財保存活用計画の中で具体的な事業計画や法令を検討していく。市の総合計画は10ヵ年計画だが、構想の有効期間は特に定めていない。年数を定めて改正するのではなく、必要があれば審議会を通して改正していく方向で考えている。

山田委員：高齢者の方は協力的だが世代が交代すると、そうではなくなってしまう。高齢化が進んでいるので、時間を短縮できるような計画を策定したほうが良いのではないか。

太田係長：必要であればすぐに審議会にかける等、柔軟な対応をしていく。

櫻井会長：概要版ができる経緯の説明をしてほしい。

太田係長：150ページ程の本編をパブリックコメントにかけたが、読み込むには量が多すぎた事に起因する意見が多かった。そこで、大事な部分だけをまとめた概要版をつくり、広く市民一般に読みやすいかたちの普及版を作成した。

櫻井会長：報告書はただ作成するのではなく、皆に理解してもらおうように作成することが大切である。また、今後の活用計画においては、人々になるべく長く滞在してもらえるよ

うな仕掛けが必要となってくる。

樽野委員：P6の一番上タイトルの前2字が抜けている。

【報告第3号】 報告「史跡 烏帽子形城跡整備事業の進捗」について

中村副会長：サインA～Fとは、どういったものか？

島津副主査：A・史跡全体の配置を表現、B・個々の遺構や遺跡の解説、C・山の中での矢印、D・遺構面の表示、E・入口から山城へのルート表示、F・史跡全体の紹介と周辺の文化財の見どころ案内

中村副会長：遺構のサインなど専門家にはわかるが、専門外の人にとってはイメージがわからないと思うので、イラストを使った方が良い。オリエンテーリングでは、ポイントに設置している番号と地図上の番号とをリンクさせる方法が使用されている。自分自身が今ここに立っているのかがわかるようにすれば、城を探検するような雰囲気で行くことができる。遺跡は専門家だけのものではない。一般向けにうまく整備すれば、観光資源としても生きてくる。大阪府唯一の山城指定として、先行しているなりに何が工夫を凝らした道筋をつけるべきである。今まで通りのオーソドックスなものにしてしまうと、退屈なものになってしまうので、頭を切り替えて専門家の視点ではなく、専門外の視点で説明できるようにうまくサインを考えてほしい。

島津副主査：専門外の方の視点を大切にして、地図と併用して番号をふるなど、今後検討していきたいので、ご指導願いたい。

樽野委員：遺構の補修が何カ所かあるが、どういう方法で実施するのか？

島津副主査：土を下の方から持って上がって、流れてしまわないように板や杭を打ちながら、表面を固める施工方法を考えている。

樽野委員：礎石の石埋めに土を持ってくると、周りとの違和感が大きくなってしまう。周りに植生があるので、できるだけ早くなじむようにしないといけない。すぐ側の土はなじみやすいという理屈で、その辺の土を持ってきて撒く方法もあるが、施工業者とよく相談して、できるだけ自然を乱さない方法で実施されたい。

教育長：間伐の際の下草に注意という話に頭を悩ませているが良い知恵はあるか？

樽野委員：事前に付近の情報をもらい、どういった植物があるのか、ある程度把握しておく必要がある。多年性の植物はまた生えてくるが、一年性の植物は一度破壊されると二度と生えてこないなので神経を使う。

【報告第4号】 報告「平成28年度 河内長野市文化財事業計画（案）」について

櫻井会長：H28予算要望について、全庁的には何割カットか？

井上課長：何割カットというのではないが、本市の財政状況は経常経費収支比率 103.9%で、全国 1800 程の自治体の中でワースト 7 位となり、非常に危機的な状況に陥っている。文化財保護費についても、これまで他市町村と比べ予算をつけて対応してきたが、今後は厳し

い展開が予想される。加えて、消滅可能性都市にもランクされているため、若い人達に住み続けてもらう、また来てもらうまちづくりに力点を置きながら、持続可能な自治体行政を展開していく必要がある。

教育長：まちづくりのマスタープランの中には、歴史文化を活かしてまちを活性化すると明示されている。財政が厳しいから歴史文化を抑えるのではなく、歴史文化のネタで色を出すことで沢山の人に来てもらい歳入を増やすという逆の発想をしないといけない。歴史文化は市の一番大きな財産である。河内長野の財産はこれしかないぐらいの考え方で指導して頂ければありがたい。

【その他】

事務局：次回は平成28年度秋頃に開催する。

【閉会】

以上